

機種により異った特性をもつことが明らかになる。

計算例として片廊下式アパートにおける台所換気の場合、及び設備コアーをもつ小住宅のコアー部の換気の場合を示す。いずれも風向・風速は最も不利な場合、また不利な場合を想定して室内外温度差を無視した。計算は各室隙間換気を考慮し、回路網計算理論を用いた。

特性曲線と本計算法により適正換気扇の撰定ができる。今後フード等と接続した取付け状態の違った場合、調理の実態（油のとび等）との関連等につき研究する。

測定・計算は嵯峨山かほる（倉敷建築研究所）、高岡晃子（置塩建築設計事務所）両者によったこと、松下電器KK及び文部省科研の補助をうけたことを感謝する。

C-15 換気扇の送風特性と換気計算

大阪市立大 上林 博雄

研究計画については昭37年支部発表会で述べ、新に考案した実験装置と送風特性測定例の一部は日本建築学会昨年度大会において発表した。本小論では壁厚をかえた場合の各種換気扇の特性を内外圧力差（+〜-）と風量（+〜-）との関係で示し、その利用方法を示す。

被験換気扇はN製品φ15, 20, 25, 30 cmのもので、壁厚は10, 20, 30 cmについて直付けの状態で測定した。ただしφ15cmは直接ガラス窓に取付けられるよう設計されているので別に測定した。測定値は1気圧、20°Cの標準状態に修正したもので、測定結果を図示する。これよりガラス窓に直付けの場合を除き、壁厚のこの程度の変化に対しては特性曲線は殆んど変化しないこと、各